

第三回 和の間会・幸匠会 共同開催

ゆきはなしょう

雪花抄

和の音と舞で綴る

令和6年
3月20日(水・祝)
開演 13時00分
(開場 12時30分)

竹田市総合文化ホール
グランツたけた
大ホール

切符 2,000円

問合せ

0974-62-2322(塩屋)
080-8361-6548(首藤)

一部 歌と舞踊

二部 箏

袖香爐

水の変態

新娘道成寺

鳥のように

三部

歌と舞踊

(鐘ヶ岬)

雪

演奏

箏・三絃

浅川京子

賛助出演

日吉章吾



東京藝術大学で出逢った首藤匠と浅川京子。

究極の演目『ゆき』を目指して互いの研鑽をぶつけ合う『雪花抄』第三弾！

今年は首藤匠地元の竹田市と桜舞う京都岩倉・妙満寺にての二回公演！

皆様のお運びを心よりお待ち申し上げます。

第一部

袖香爐

峰崎勾当 作曲
銚屋治郎兵衛 作詞

地歌・端歌もの

家族、恋人は勿論のこと師弟関係や仲間として、
親愛の情を交わした人が遠くへ、手の届かないところへいってしまう。
その哀切は誰しも覚えのあるもの。
そうした感慨を梅の香・伽羅の薫りや雁に喩えて、素直に上品に
詠われている。

江戸時代の天明・寛政期(1781~1801)大阪で活躍した峰崎の作品

新娘道成寺(鐘ヶ岬)

石川勾当作曲(江戸後期)

謡曲『道成寺』を元に長唄『京鹿子娘道成寺』より抜粋し
地歌に移した「道成寺もの」の一つ。

添い遂げる約束を反故にされた清姫は蛇体と変幻し、想い人
安珍を鐘ごと焼き尽くす！という安珍・清姫伝説から。

地歌では、仏教によって救われた安珍と清姫の後日談とも言
える「京鹿子娘道成寺」の鞠歌や花の下で舞う美しい女性の
描写を中心とする。

安珍・清姫伝説を基に男女の恋心を謳い、鞠つきのリズムの
軽やかな手事に、廓尽くしの鞠歌で華やかに納める。

.....

この曲は雪花抄第1回目の会を開く前から踊り続けており、
藝大卒業後コロナ禍中で、浅川氏に送って頂いた演奏音源に
踊りを付けて「リモート」で踊る事2年、その後第1回目雪花
抄を開催し今年で5度目の春を迎えました。5年目のまた新たな
気持ちの新娘道成寺をご覧ください。(花柳美匠治郎)

日吉章吾(賛助出演)

箏曲演奏家

静岡県出身。6才より生田流箏曲の手ほどきを三木千鶴師、のちに、金津千重子師に師事。
東京藝術大学大学院修了。
東京藝術大学非常勤講師、箏曲正統社師範、日本三曲協会、千鶴の会、森の会、平家語り研究会、各会員、重音会友。
2012年 高橋繁秋師に胡弓を師事
2015年 平家語り研究会に参加
＜出演＞
NHK-FM「邦楽のひととき」「邦楽百番」
国立劇場、国立文楽劇場、新国立劇場の
主催公演、他、海外での演奏経験。
＜受賞歴＞
第1回利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞
賢順記念全国箏曲祭 第21回全国箏曲コン
クール 観賞及び福岡県知事賞受賞。
2016年度文化庁芸術祭音楽部門新人賞。



お問い合わせは左記HPまで



お問い合わせ
koto3gen.kyouko@gmail.com

第二部

水の変態

宮城道雄 作曲 明治42(1909)年
大和田建樹 作詞(推定)
箏(本手・替手)二重奏曲

盲目の宮城道雄が弟の教科書朗読を機縁に満14歳で作曲した、
処女作であり代表作。
秋から冬にかけて水の変わりゆく姿を人との関連や視点で表現し
た詩からインスピレーションを受け、音楽的にも高め変換した。
合いの手を更に進化させ雨と霞の手事では、スクイ爪や掻き爪、
割り爪などを用いて、本手と替手が緩急、強弱交えて水の姿や
自然の厳しさ、優しさを描写する。

鳥のように

沢井忠夫 1985年作曲

現代の箏という楽器の特性を最大限発揮出来るように作られた
沢井忠夫の代表作。

宮城道雄からの影響を色濃く窺わせるのはその手法だけでなく、
古典を大切にしながら時代の聲を聴く、アグレッシブで
アバンギャルドな精神だ。

第三部

雪

峰崎勾当 作曲
流石庵羽積 作詞

地歌・端歌ものの最も成熟した江戸・天明期の作品。
大阪・南地の芸妓が想い人との繋がりが途絶え世を儚み出家した。
花も雪も払って心には何も無い筈であるのに...と
昔の恋の思い出を回想する心情を歌ったもの。
演奏と歌に高度な技量を必要とし、日本舞踊としても、
微細な動きで感情や心的背景、風情の表現を要求される。

浅川京子

地歌・箏曲演奏家

幼少より事・歌を嗜み三歳初舞台。
NHK邦楽技能者育成会52期卒業。
地歌三絃、箏を元東京藝術大学教授
矢崎明子氏に師事。
東京藝術大学邦楽科別科修了。
生田流宮城道雄師範、『和の問合』主宰。
尺八に事・三絃いずれか一つで合わせる
『一絃一管の会』主催。
『妙満寺月例演奏会』『お品書きコンサート』など、音を届けるだけでなく聴く人との
対話や心の交流を大切に。ライターと
して言葉の紡ぎ活動も展開している。
2020年K邦楽グランプリコンクール
(伴奏含む)地歌「ゆき」で奨励賞。
K邦楽コンクール古典・現代二部門2年連続
受賞。ハンガリー公演・千住LAB参加。
2021年・2023年
賢順記念全国コンクール入選。



花柳美匠治郎

日本舞踊家(本名 首藤 匠)

1997年7月24日大分県竹田市出身。
幼少より和紙人形や茶道を始め、
中学生の時に日本舞踊と出会い
花柳美匠治郎に師事

2015年 花柳流名取
2016年 東京藝術大学入学。
花柳輔太郎師に師事
2017年 東京新聞主催
全国舞踊コンクールで2位入賞
同年花柳流師範取得
2019年 長唄作家派名取
2020年 東京藝術大学卒業

卒業後全国各地での舞踊会出演や
YouTubeにて小明唄りや着付けの動画など
日本文化を発信中/率直会主宰



お問い合わせは
InstagramのDMまで